

スが提供する子育て支援について報告します。

子どもとの関わり方に悩むママ

Aくんは2歳の男の子。好奇心旺盛で、目に留まるものは何にでも興味を示します。身体を動かすことが大スキなので、朝早くから外に行きたがり、お母さんはAくんのリクエストに応じて朝早くから公園に行ったり児童館に行ったりして一日外遊びに付き合ってたたくたくなって帰ってくる、という日々が続いていました。そんなA君と一緒に通える場所としてフレッシュママクラスにも参加するようになりました。お母さんはA君にお付き合いするために自分の時間が取れないのはもちろんのこと、家にいる時間が少ないので、家事もままならない様子でした。また、いろいろな物に興味を示して手を出すA君から目が離せないため、気が休まることなく、夕方になるとイライラしてくるとこぼしていました。またA君は、自分の興味のあることに没頭してしまうため、お母さんの言葉かけが耳に入らず、どう言葉かけをしたらよいのかにも悩んでいました。A君のお母さんは私がフレッシュクラスに顔を出す時はいつも何かしら質問をしてきました。

ある日、「子どもにはいけないことを教えるにはどうしたらいいですか?」と質問がありました。私は「2歳ではしてはいけないことを理解する年齢ではないので、例えば、外に出られない時に出たがったら『外にでちゃダメ!』と禁止するのではなく『お外に行きたいのね。でも、今はおうちのおもちゃで遊びましょう』と本人の気持ちを酌んだ後に、今何をするのかを本人にわかるように伝えましょう」とアドバイスをしました。その日、フレッシュママクラスの最中にもA君がお部屋から出て行きたくなって廊下に飛び出して行ってしまう場面がありました。A君をスタッフが抱っこして、「お外に行きたいのね。でも、窓からお花が見えるよ。ちょっと見てごらん」と声をかけ窓の方に連れていきました。ふたりきりの家の中とは違いお母さんは自分



が関わらなくても済み、子どもへの関わり方を見て学ぶ場面にもなりました。フレッシュママク

ラスを卒業する時に、A君のお母さんは「この場所は私達親子にとって癒しの場であり学びの場でした。この場所がなかったら子育てに行き詰ってました」と感謝の気持ちを述べられていました。

実質的サポートと精神的サポートで孤立感から解放

フレッシュママクラスは母親の精神面を支えることを目的に開催していますが、子育て支援にはふたつの要素が必要だと考えています。ひとつは「実質的サポート」。例えば赤ちゃんのお世話で家事に手が回らない時に手伝ってくれるヘルパーの派遣、子どもを連れて行けない場所に出かける時や母親が病気になってしまった時などに保育してくれる一時預かりシステム、子どもを連れて出かけた先で困らないように授乳場所や子ども仕様の設備を整えていくといった取り組みです。

もう一つは「精神的サポート」。初めての子育てでわからないことや不安に思っていることを相談できる人や場所を整える、心身の疲労が激しい時に休養がとれるように子どものお世話をしてくれる人や場所を整えることも必要です。また、孤立感や精神的苦痛の感覚を増強させるので、同じ立場の仲間との繋がりをつくることも大切です。夫や家族がサポートしてくれていると感じられるような人的環境を整えることも重要です。赤ちゃんが外に行きたがらない乳児期は、とりわけ孤立しやすく、情報からシャットアウトされてしまう時期です。この時期に、外から人が訪問して、人とのつながりをつくる役目をしてくれたり、地域の情報を届けるのは、母親がサポートされているという感覚を持つのに役立つでしょう。サポートされている、という感覚があれば少々大変なことでも頑張りがきくものです。

子育ては地域の中の「つながり」で

人間という生き物は、猿やゾウと同じように本来群れて活動をする生き物だそうです。母親が孤軍奮闘して子育てをする、というのは本来の姿ではありません。母親が孤立しないように地域の母親同士が顔見知りになってお互いを支え合う、子育てをサポートする人が家族にも家族以外にもいる、保育士や保健師、栄養士や臨床心理士等の専門家とのつながりを作り、いつでもアドバイスをもらえるようにする等、人的環境を整えることが、安心して子育てができる環境には不可欠です。今後も子育て支援をキーワードに人に優しいまちづくりを目指して私達も活動を拡げていきたいと思っています。